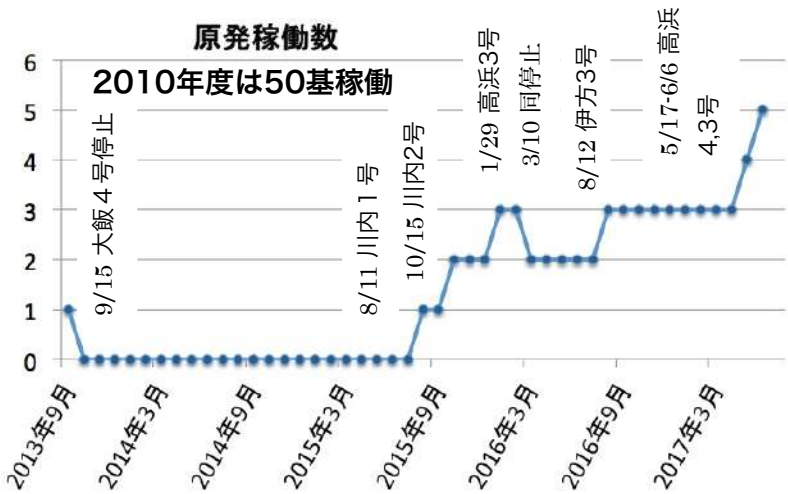
子どもたちと未来のために，みんなで原発を止めよう

原発稼働ゼロ，またはほとんどゼロが5年続きましたが，電力不足なし．

佐賀県と長崎県の30キロ圏内の8市町のうち半数の4市（伊万里市、壱岐市、松浦市、平戸市）が再稼働に反対．世論も過半数が反対．

あなたもひとはだ脱いで下さい

あなたにも出来ること：県や自治体，新聞・テレビに意見を送る，このチラシのような宣伝物をあなたのまわりの人に配る，など．



福島原発事故と被害は現在も進行中です．

放射能汚染は関東まで及び，福島県の子どもの甲状腺ガンは公表されただけでも「疑い」も含め190人にものぼります．大気・土壌汚染も依然として深刻です（右の表の☢マーク２つ以上でチェルノブイリでは移住の権利が発生）．

ところが政府は「自主避難者」への支援を打ち切り，一般人の線量限度の20倍にも当たる年20ミリシーベルトもの汚染地域への住民帰還を進めています．これはチェルノブイリ事故での居住禁止の基準値の実に４倍です．

右の表は福島の汚染状況．「女性自身」2016年3月8日号から．しかし関東圏も汚染されており，例えば新宿区片町は2015年5月測定で35,000ベクレル/平方メートル[注1]，汚染のない福岡県では65ベクレル/平方メートル以下で，これが平常値．
地表面線量の平常値は0.04μSv/h（マイクロシーベルト／時）

40,000 (Bq/m)以上で放射線管理区域!

原発事故「5年目の福島」小中学校周辺土壌汚染調査61 ①

自治体名	小中学校(周辺)	地表面線量(μSv/h)	土壌に含まれるセシウム137(Bq／m²)	チェルノブイリの危険度区分
会津若松市	行仁小学校	0.15	221,000	☢☢
	河東学園小学校	0.22	44,400	☢
耶麻郡磐梯町	磐梯第一小学校	0.16	28,000	—
郡山市	日和田中学校	0.39	329,000	☢☢
	富田小学校	0.43	349,000	☢☢
	橋小学校	0.44	180,000	☢
	郡山第三中学校	0.52	438,000	☢☢
	行健小学校	0.19	17,000	—
	桑野小学校	0.23	203,000	☢☢
	河内小学校	0.17	53,700	☢
	東芳小学校	0.24	73,600	☢
本宮市	和田小学校	0.95	665,000	☢☢☢
	〃	1.00	581,000	☢☢☢
	本宮まゆみ小学校	0.62	413,000	☢☢
田村郡三春町	三春中学校	0.27	40,000	☢
福島市	渡利小学校	0.51	110,000	☢
	福島大学教育学部附属小学校	0.28	21,000	—
	岳陽中学校	0.67	160,000	☢
	野田小学校	0.41	69,000	☢
	鎌田小学校	0.46	130,000	☢
	三河台小学校	0.28	64,000	☢
	岡山小学校	0.55	95,000	☢
	福島第一中学校	0.60	480,000	☢☢
	大森小学校	0.38	233,000	☢☢
	信夫中学校	0.34	35,000	—
	野田小学校	0.16	8,000	—
二本松市	小浜中学校	0.59	508,000	☢☢
	岳下小学校	0.19	16,000	—
	川崎小学校	0.66	465,000	☢☢
	二本松第二中学校	1.14	1,080,000	☢☢☢
	〃	1.14	856,000	☢☢☢
昨年末に測定した青森県・高舘PA、秋田県・花輪SAの土壌に含まれるCs137の値（NPO法人市民環境研究所調べ）				
青森県	高舘PA	—	120	—
秋田県	花輪SA	—	180	—

規制委員会の審査は疑問だらけ

佐賀県の山口知事は，審査結果は，規制基準に適合していることを県としても確認したと述べました（4/24の記者会見）．しかし県内５箇所の県民説明会で出された疑問，たとえば格納容器での水蒸気爆発の危険性，フィルターベント設置猶予の問題などに規制委員会はまともに答えていません．また住民避難はそもそも審査の対象にすらなっていません．

使用済み燃料は処分も再処理もできない

再稼働で使用済み燃料が増えますが，その最終処分のあてもありません．もし使用済み燃料を再処理すると大量の放射能で周辺を汚染するだけでなく，原爆の材料であるプルトニウムが取り出されます．これまでに日本はすでに長崎型原発の５千発分に相当する量のプルトニウムをため込んでおり，諸外国から核武装の意図を疑われかねません．も

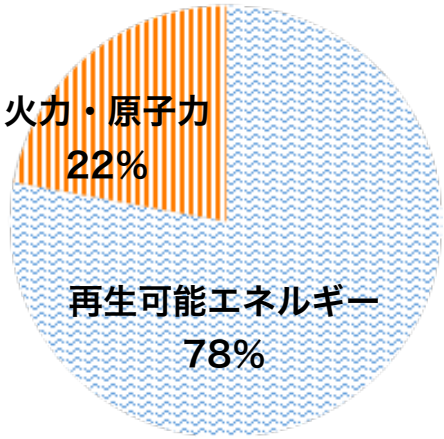
ちろん高レベル放射性廃棄物（核のゴミ）も残ります．再稼働してこれ以上核のゴミを増やしてはなりません．

玄海原発周辺での白血病の多発

元 純真短期大学講師・森永徹氏の調査によれば[注2]，玄海町や唐津市など．玄海原発に近いところほど原発稼働後に白血病死亡率が高くなっています．また，原発稼働の前後では，玄海町と唐津市の白血病死亡者数の合計は，**原発稼働前が66人に対して稼働後が185人と約３倍に増えて**います（それぞれ前後の10年間．唐津市は原発稼働の前後を通じて合併後の唐津市の範囲．人口あたり発生率も数倍上昇）．

玄海原発はトリチウムという放射性物質の環境への放出が国内の他の原発に比べて突出しています．稼働していた2012年までの11年間で累積826兆ベクレルを環境に放出していますが，これは福島原発事故の汚染水タンクにある817兆ベクレルを上回ります．これが白血病多発の原因として疑われます．トリチウムは水素の一種なので,放射線を出す水分子となり,普通の水分子と同様容易に人体に入り,内部被ばくを引き起こします.

CO2削減は可能 ― 再生可能エネルギーの急速な伸び



2016年5月4日13時の九電の電力需給
（余った200万kWは含まない）

山口知事は4月24日の記者会見で，再稼働が必要な理由の一つとして「再生可能エネルギーはその安定供給に課題がある」ことを挙げました．しかしわが国には揚水発電所という巨大な「バッテリー」が全国で2千7百万kW，つまり大型原発20基分もあるのです．これを安定供給のために使うことができます．

実際，昨年5月の好天の日には九電は需要747万キロワットのうち**太陽光など再エネで582万キロワット，つまり78%**をまかないましたが（右の円グラフ），火力や原子力もあるので**余った200万キロワット（円グラフには含まれない）は揚水発電所に**送られました．太陽光発電に関しては，九州では行政の認定を受けていながら未設置のものが，稼働しているものの２倍ほどあり，まだ大きな可能性があります．また，国立の新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は圧縮空気によって電力を蓄える実証実験を4月に始めています.

世論の多数は再稼働反対．民意を実現するために，あなたも行動を

県が募集した県民からの意見では，提案箱のほぼすべてとホームページ投稿の約９割が再稼働に反対や疑問です．また佐賀新聞の世論調査でも反対が過半数です．なぜ民意に反することがまかり通るのでしょうか？

原因の一つは，「どうせ反対しても無駄だ」というあきらめの気持ちのためではないでしょうか．でも，一人ひとりの声が力になります．例えば，まわりの人と原発の話しをしたり，県や地元の自治体，新聞・テレビなどに意見を送って下さい．あるいは，このチラシのような宣伝物をあなたのまわりの人に配っていただけないでしょうか．原発事故の不安のない未来を子どもたちに引き継ぐために，放射能という負の遺産をこれ以上増やさないために.

[注1]ホワイトフード株式会社による538ベクレル/kgのデータから換算.
[注2]社会医学研究，第56回日本社会医学会総会講演集（2015）p.94.

数字の根拠など詳細は次のウェブサイトをご覧下さい.
http://pegasus1.blog.so-net.ne.jp/2017-06-16 → →

2017年8月 ver.6 発行者：豊島耕一（元佐賀大学理工学部教授）
電話／ファクス （ネット版では非公表）